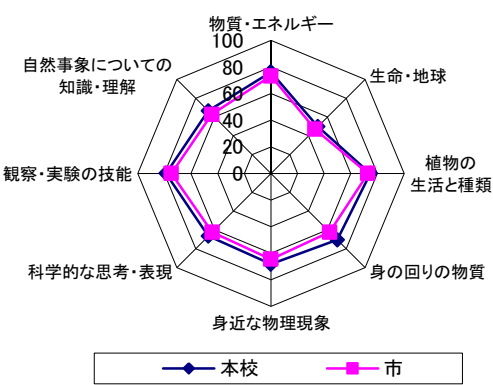


宇都宮市立豊郷中学校 第1学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	物質・エネルギー	76.2	73.3
	生命・地球	49.8	47.0
	植物の生活と種類	74.6	72.9
	身の回りの物質	70.5	62.4
	身近な物理現象	68.2	64.5
観点別	科学的な思考・表現	66.5	62.5
	観察・実験の技能	78.8	74.8
	自然事象についての知識・理解	66.5	62.8



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	本校の正答率は市の正答率を2.9ポイント上回っている。小学校での既習内容である「てのはたらき」「電流の利用」からの出題であったが、他領域と比べると上回るポイントは高いほうではない。特に、てこをつり合わせるために必要なおもりの重さの求め方の理解が十分とはいえない。知識を日常生活の現象に結びつけて考えることが身についていないと思われる。	「てこのはたらき」に関しては、生徒が理解しにく内容である。3年で学習する「仕事の原理」と合わせて復習をさせ、理解の深化を図りたい。また、「電気の利用」に関しては、2年で学習する「電気」や3年で学習する「エネルギーの変換」へつながるように、復習させていきたい。
生命・地球	本校の正答率は市の正答率を2.8ポイント上回っている。小学校での既習内容である「大地のつくりと変化」からの出題であったが、上記同様、他の領域と比べると、上回るポイントは高くはない。特に、砂とどろの、水中での沈み方の違いの理解が不十分である。	「大地のつくりと変化」は1年で学習する「地層のでき方」や「堆積岩」の内容につながる。小学校での学習内容を復習しながら、知識を広げていきたい。 「地震」に関しては、どの生徒も高い関心を持っている。地震が起こるメカニズムなどを知り、防災への意識を高めていきたい。
植物の生活と種類	本校の正答率は市の正答率を1.7ポイント上回っている。「身近な生物の観察」「植物のからだのつくりとはたらき」からの出題であったが、上記同様、他の領域と比べると、上回るポイントは高くはない。特に、顕微鏡の正しい使い方と植物の葉のはたらきを確かめる実験で、葉を入れない試験管を用意する理由(対照実験)の理解が不十分である。	この領域は、2年で学習する「動物のからだのしくみ」と3年で学習する「生命の連続性」につながっているため、系統だてて指導していきたい。 特に、観察時に顕微鏡の原理や構造を復習して、使い方を理解すると共に技能を育てていけるように手立てを考えていきたい。
身の回りの物質	本校の正答率は市の正答率を12.8ポイント上回っている。生徒の多くが苦手意識をもっている「光の性質」からの出題であったが、比較的正答率は高かった。光がガラスを通り空気中へ出る道筋の問題の正答率は72.6%で、この領域の他の問題と比べると低かった。	この領域(光・音・力)は、目に見えにくい自然現象を扱うので、わかりにくい内容である。苦手意識をなくすために、光の進み方を調べる実験や凸レンズのはたらきを調べる実験に時間を十分にとっていきたい。また、問題演習をすることで知識の定着を図っていきたい。
身近な物理現象	本校の正答率は市の正答率を8.1ポイント上回っている。気体の発生やプラスチックの性質についてはよく理解できている。蒸留が、身の回りのどのような場面で行われているか確認する問題の正答率は45.1%で、この領域の他の問題と比べると低かった。	身近なものを使って実験を行うことで、さらに生徒の興味・関心を喚起していきたい。そして、実験結果から科学的に思考する力を育て、身の回りの事象についても科学的にとらえることができるようにさせたい。